

地域に根ざし
人生に寄り添う
医療を目指して

茨城県つくば市にある「おのぼりクリニック」は、関節リウマチや変形性膝関節症をはじめとした慢性の運動器疾患に向き合うクリニックだ。痛みを取ることで、機能を改善することはもちろん、その先にある「その人らしい生活」を見据えた診療を大切にしている。

数多くの患者と向き合うなかで、「症状が改善しても、患者さんが望む生活に戻れていないケースが少なくない」ことに課題意識を持つようになったという。

「痛みが減った、数値が良かった、それだけで本当に治療が終わったと言えるでしょうか。患者さんには、それぞれ送りたい人生があります。私はそこまで含めて支える医療を実現したいと思っています」

その思いを形にする場として、尾登院長が開院したのがおのぼりクリニックだ。診察室だけで完結しない、リハビリや心理的サポート、多職種連携を含めた「トータルケア」を軸に、地域医療に取り組んでいる。



おのぼりクリニック
院長 尾登 誠

日本整形外科学会 整形外科専門医
日本リウマチ学会 リウマチ専門医

治療の先にある「人生」を見つめる

つくば市 おのぼりクリニックの関節治療

進行性疾患と
どう向き合うか

関節リウマチは、免疫の異常によって関節の内側に炎症が起こり、痛みや腫れ、こわばりといった症状を引き起こす病気だ。進行すると軟骨や骨が破壊され、関節の変形や機能障害につながることも少なくない。かつては「進行を止められない病気」というイメージが強かったが、近年は治療薬の

進歩により、早期から適切な治療を行えば「寛解」と呼ばれる、症状が落ち着いた安定した状態を目指すようになってきている。

「関節リウマチで最も重要なのは、できるだけ早く診断し、治療を開始することです。炎症が続く期間が長いほど、関節破壊のリスクは高まります。逆に言えば、早期に介入できれば、将来の生活の質を大きく守ることが出来ます」

診断後は、抗リウマチ薬を軸に、生物学的製剤やJAK阻害薬などを組み合わせ、まずは関節の炎症を抑えることを目標とする。治療効果や副作用、患者の生活ス

変形性膝関節症

一方、変形性膝関節症もまた、年齢を重ねるにつれて多くの人が悩まされる進行性の疾患だ。膝関節では、歩行時に体重の約3倍もの負荷がかかるとされており、加齢や長年の使用によって半月板が損傷したり、軟骨がすり減ったりすることで、骨同士が直接ぶつかり合うようになる。その結果、立ち上がりや歩行時の痛み、正座や階段昇降の困難さといった症状が現れる。

厚生労働省の調査*によれば、国内で痛みなどの自覚症状を有す

「症状の程度や生活背景は人それぞれです。大切なのは、疾患そのものだけでなく、その人がどんな生活を送りたいのかを踏まえて、最適な治療の選択肢を一緒に考えることだと思います」

*厚生労働省「介護予防の推進に向けた運動機能維持対策に関する検討会報告書」平成20年7月

「関節リウマチで最も重要なのは、できるだけ早く診断し、治療を開始することです。炎症が続く期間が長いほど、関節破壊のリスクは高まります。逆に言えば、早期に介入できれば、将来の生活の質を大きく守ることが出来ます」

変形性膝関節症の患者は約1000万人、症状がなくてもレントゲン検査で診断される潜在患者は約3000万人にのぼると推定されている。まさに、誰にとっても身近な疾患といえるだろう。

初期治療では、消炎鎮痛薬の内服やヒアルロン酸注射、筋力訓練やストレッチといった保存療法が中心となる。しかし、これらはあくまで痛みを抑えたり、進行を緩やかにしたりする対症療法であり、変形そのものを元に戻す治療ではない。症状が進行すると、高位脛骨骨切り術や人工関節置換術といった手術療法が選択肢となる場合もある。

自己治癒力に着目した新たなアプローチ— PFC-FD™ 療法

膝の手術を
回避できる
バイオセラピー
という選択肢

関節疾患に対し、おのぼりクリニックが新たな治療の選択肢として導入しているのが、PFC-FD™ (血小板濃縮因子フリーズドライ療法)だ。これは、患者自身の血液から成長因子を抽出・濃縮し、フリーズドライ化したものを患部に注入するバイオセラピーの一つである。

私たちの身体には、本来、傷ついた組織を修復しようとする「自己修復力」が備わっている。血液中に含まれる血小板には、止血作用だけでなく、組織の修復や再生を促すさまざまな成長因子が含まれている。PFC-FD™ 療法は、この血小板由来成長因子の働きを治療に応用し、炎症の抑制や痛みの軽減、組織の回復を促すことを目的としている。



尾登院長は、この治療法について次のように説明する。

「PFC-FD™ 療法は、自分自身の血液を使用するため、アレルギー反応などのリスクが比較的小さいのが特徴です。保存療法では十分な効果が得られず、かといって手術には抵抗があるという方にとって、有力な選択肢になり得ます」

PFC-FD™ 療法は、変形性膝関節症をはじめ、靭帯損傷、スポーツ障害、テニス肘やゴルフ肘といった慢性的な運動器の痛みに対してでも応用されている。痛みの軽減や動きやすさの変化が期待できる。

この治療法の特徴は、単に一時的な鎮痛を目的とするのではなく、組織環境そのものの改善を目指す点にある。フリーズドライ化することで成長因子を安定的に保存でき、必要なタイミングで使用できる点もPFC-FD™ 療法ならではの利点だ。

PFC-FD™ 療法は、保存療法と手術療法の「中間」に位置づけられる治療であり、これまで「手術しかない」と言われてきた患者にとって、治療の選択肢を広げる可能性を持っている。尾登院長は、「治療を理由に、やりたいことを諦めてほしくない」と語る。

「痛みがあるから外出を控える、運動をやめる、仕事や趣味を諦める、そうした選択をする前に、まだできる治療があるかも知れません。PFC-FD™ 療法を通じて、患者さんがもう一度前向きに生活を考えられるきっかけを提供したいと思っています」

一人で抱え込まず、まずは相談を

おのぼりクリニックが大切にしているのは、病名や検査数値だけを基準にした医療ではない。痛みや炎症を抑えることは治療の重要な一歩だが、その先にある「どのような生活を送りたいのか」「何を続けたいのか」といった患者一人ひとりの思いに目を向けた診療を心がけている。

院内では、基本的な機能回復を目的としたリハビリテーションに加え、日常生活に即した動作の改善を重視した指導を行っている。身体の状態を確認しながら無理のない目標を設定し、「できること」を少しずつ積み重ねていくこ

とで、治療への前向きな姿勢を支援していく。

「今受けている治療に疑問がある方、手術には抵抗がある方も含めて、まずは状況を整理することから始めたいと思っています。すぐに治療を決める必要はありません」と尾登院長は話す。

関節リウマチや変形性膝関節症で悩んでいる人、現在の治療に不安を感じている人にとって、おのぼりクリニックは「相談から始められる医療」を提供している。自分に合った治療や向き合い方を見つけるための第一歩として、気軽に相談してみたいかがだろう。

【治療費用(自由診療)】PFC-FD™ 159,500円(税込)、PFC-FD™(2.0) 214,500円(税込)



おのぼりクリニック

〒305-0834 茨城県つくば市手代木1927-1

予約専用ダイヤル

029-828-8122

【電話対応時間】9:00~11:00、13:00~16:00

治療詳細は当院ホームページでご確認ください

<https://onobori.clinic>

